

相模原市

モデル圏域 相模原圏域

～流れを止めるな～

人と地域をつなぐ虹の架け橋構想

相模原市では、令和元年度から構築支援事業に参加し、医療・福祉・ピアサポーターとの協働による「にも包括」の取組を開始し、地域移行支援ピアサポーターの活用や支援者支援等の取組で効果を得た。この流れを止めることなく、特徴の異なる7つの地域（緑区・中央区・南区・津久井4地区）それぞれの特性を生かし、人と地域がつながる心の架け橋を目指して、新たな取組を開始する。

2 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた取組概要（全体）

・相模原市では、長期入院している精神障害者への地域移行支援から始まり、広く誰もが住みやすい地域づくりに向け、当事者や関係機関と連携しながら、地域包括ケアシステムの構築を目指している。

1. 保健・医療・福祉関係者による協議の場の設置

・H28年度に設置した「地域移行推進連絡会議連絡会議」を協議の場として発展させ、「精神障害者にも対応した地域包括ケアシステムの構築推進連絡会議」を開催している。協議を重ねるなかで、支援者支援の必要性が明らかになり、訪問看護事業所や地域包括支援センターを対象とした事例検討会を開催するに至った。

2. ピアサポートの活用

・地域移行支援に特化したピアサポーターを養成し、精神科病院における普及啓発活動やバリアフリーフェスティバル、協議の場等で活躍している。

3.入院中の精神障害者の地域移行

・医療機関と相談支援事業所の連携により、個別給付件数は増加傾向にある。

4.措置入院者の退院後の医療等の継続支援

・平成30年4月に制定した「相模原市措置入院者等の退院後支援マニュアル」に基づき、事業を担当する専門班を設置し、個別支援を実施している。

2 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた取組概要（全体）

5. 精神障害者の家族支援

- ・統合失調症やうつ病等、疾患別の家族教室を各区等で開催している。

6. 精神障害者の地域移行関係職員に対する研修

- ・地域の支援機関や庁内関係課を対象として、地域移行支援や地域包括ケアシステムの構築推進のための研修会を開催している。

7. 包括ケアシステムの構築状況の評価

- ・ReMHRADを活用して地域診断を行い、協議の場で報告した。
- ・広域及び密着アドバイザーの協力を得て、本市の取組状況について評価を行った。

8. 普及啓発

- ・市民を対象としたメンタルヘルス市民講座やバリアーフリーフェスティバルを開催している。

9. 障害・高齢・医療分野との連携

- ・庁内では障害分野との意見交換、関係機関としては高齢、訪問看護分野との事例検討会を開催し、地域包括ケアシステムのイメージの共有に努めている。

3 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた取組の経緯

○平成27年度

・停滞していた地域移行に関する取組を再開。精神科病院や相談支援事業者、関係機関等との意見交換を行い、今後の取組の方向性を検討した。

○平成28年度

- ・地域移行連絡推進会議を設置した。
- ・地域移行に関する事例検討会、支援者向けの研修を実施し、精神障害者の地域移行に関する関心を高める取組を行った。
- ・630調査を活用し、1年以上の任意入院患者の調査を行い、退院阻害要因の把握に努めた。

○平成29年度

- ・市内精神科病院において支援検討会議を開催し、長期入院患者の退院可能性について検討を行った。
- ・地域移行支援に従事するピアサポーターの養成を開始した。

○平成30年度

- ・地域移行推進連絡会議を協議の場とした。
- ・地域移行支援ピアサポーターが、精神科病院にてメッセージ活動を行った。
- ・措置入院者等の退院後支援マニュアルを作成し、退院後支援計画に基づいた個別支援を開始。

○令和元年度

- ・構築支援事業に参加し、体制整備の検討を始めた。
- ・訪問看護や高齢者支援センター等、分野別事例検討会を開催し、支援者支援を開始した。

4 精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築に資する取組の成果・効果

＜令和元年度までの成果・効果＞

課題解決の達成度を測る指標	目標値 (R1年度当初)	実績値 (R1年度末)	具体的な成果・効果
①これまでの取組に関する第三者評価の実施	検証の実施	検証の実施 ・AD打合せ4回 ・協議の場2回	・協議の場における意見交換が活発になり、支援者支援等、地域包括ケアシステムの構築における課題が共有できた。
②上記評価によって明らかになった課題についての検討、ビジョンの明確化	検証の実施	検証の実施	・訪問看護及び高齢者支援分野において、事例検討会を開催し、支援者支援の場を確保できた。 ・子育て中の当事者支援等、次年度につながる新しい家族支援の方向性を確認できた。
③庁内連携の場の確保	場の確保	場の確保 ・障害1回 ・高齢1回 ・医療1回	・庁内のみならず地域の支援者も交えた場を設け、地域包括ケアシステムのイメージを共有することができた。

5 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた現時点における強みと課題

【特徴(強み)】

- ・従来から地域移行推進連絡会議が協議の場として機能しており、医療機関や地域の支援機関との顔の見える関係が構築されている。
- ・地域移行支援に特化したピアサポーターを養成し、精神科病院や入院患者にアプローチが可能となっている。
- ・措置入院者の退院後支援に取組み、行政・地域の支援者が一体となった支援体制の構築が図られている。

課題	課題解決に向けた取組方針	課題・方針に対する役割(取組)	
障害・高齢・医療分野との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・成功事例を中心に共有する場を設け、連携に向けた意識を高める。 ・障害福祉計画の策定に「にも包括」の視点で参画する。 	行政	ニーズ調査、事例を共有する場の開催、障害福祉計画策定への参画、措置入院者退院後支援
		医療	事例を共有する場への参加、協力
		福祉	事例を共有する場への参加、協力
		その他関係機関・住民等	事例を共有する場への参加、協力
地域移行支援ピアサポーターの活躍の場の創出	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣他市精神科病院への働きかけを開始する。 ・支援者に対し、普及啓発の場を設ける。 	行政	精神科病院への働きかけ
		医療	ピアサポーター活動の受入れ、協力
		福祉	ピアサポーター活動の受入れ、協力
		その他関係機関・住民等	ピアサポーター活動の受入れ、協力

課題解決の達成度を測る指標	現状値 (今年度当初)	目標値 (令和2年度末)	見込んでいる成果・効果
①連携に向けた成功事例を共有する場の確保	0	2	多分野連携に向けた意識の向上
②近隣他市精神科病院への働きかけ	未実施	実施	ピアサポーター活動の普及・拡大、地域移行の促進
③			

※指標設定が困難な場合は、代替指標や定性的な文言でも構いません。

6 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた今年度の取組スケジュール

時期(月)	実施する項目	実施する内容
R2年8月頃	にも包括構築に向けたアンケート調査の実施	・協議の場参加者を対象に、これまでの取組への評価や担える役割等について、アンケート調査を実施する。
R2年9月頃	取組状況の評価	・ReMHRAD等のデータ及びこれまでの取組から地域診断を行い、地域課題や強みを明らかにする。
R2年10月以降	連携を目的とした事例検討会議の開催	・障害、高齢、医療分野において、成功事例を題材とした事例検討会議を開催し、連携に向けた意識を高める。
	他市精神科病院への働きかけ	・長期入院患者の実態把握、ピアサポーターによる普及啓発活動の可能性の検討
	ピアサポーターによる普及啓発	・支援者向け研修の場において、ピアサポーターによる普及啓発を行う。
	アンケートの集計	・アンケート結果の集計・分析 ・広域及び密着アドバイザーを中心とした評価会議の開催
R2年11月以降	「相模原市精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築の推進連絡会議」の開催	・上記アンケート及び地域診断の結果を踏まえ、相模原市における「にも包括」のあり方について、協議を重ねる。

モデル圏域から自治体全体への展開に向けた方針

自治体全体への展開に向けた方向性

これまでの市域全体を対象とした取組から、各区（緑区・中央区・南区・津久井4地区）の地域特性に応じた取組に落とし込み、各区の実情に応じた、より身近で実践的な連携体制の構築を目指す。

各区の実践から見えてきた課題や効果的な取組を市全体へと般化させ、誰もが実践しやすい「にも包括」の構築へつなげる。

<自治体全体への展開に向けた具体的な取組方針>

1年目（令和2年度）

障害・高齢・医療分野との 連携の強化

- ・各区等の成功事例を共有し、連携に対する意識を高め、つながりを強化していく。
- ・地域連携における本市の課題や強みを明らかにする。

2年目（令和3年度）

連携体制の整備

- ・これまでの取組を評価し、地域の実情に応じた連携体制について検討する。
- ・区単位での連携体制について、整備を進める。

3年目（令和4年度）

連携体制の検証と見直し

- ・区単位での取組について評価を行い、課題に応じた連携体制について検討し、市全体の取組へと般化する。

事業実施圏域毎に次ページ以降の スライドを作成して下さい。

例) 2箇所の圏域(A・B)がある場合、
A圏域(表紙(10)、1~4(11~14)スライド)、次にB圏域となります。

政令市或いは特別区で、本事業におけるモデルの取組が
1自治体1圏域の場合、基礎情報や目標値等、
情報の重複が発生してしまいますが、
データをコピーしながらご作成いただけますと幸いです。

※市内を複数のブロックに分けて実施されるような場合は、
「ブロック=圏域」と捉えていただいて構いません。

相模原市

相模原圏域

～流れを止めるな～

人と地域をつなぐ虹の架け橋構想

相模原市では、令和元年度から構築支援事業に参加し、医療・福祉・ピアサポーターとの協働による「にも包括」の取組を開始し、地域移行支援ピアサポーターの活用や支援者支援等の取組で効果を得た。この流れを止めることなく、特徴の異なる7つの地域（緑区・中央区・南区・津久井4地区）それぞれの特性を生かし、人と地域がつながる心の架け橋を目指して、新たな取組を開始する。

2 精神障害にも対応した地域包括ケアの構築支援事業 実施前の課題・実施後の効果等

＜令和元年度までの成果・効果＞

課題解決の達成度を測る指標	目標値 (R1年度当初)	実績値 (R1年度末)	具体的な成果・効果
①これまでの取組に関する第三者評価の実施	検証の実施	検証の実施 ・AD打合せ4回 ・協議の場2回	・協議の場における意見交換が活発になり、支援者支援等、地域包括ケアシステムの構築における課題が共有できた。
②上記評価によって明らかになった課題についての検討、ビジョンの明確化	検証の実施	検証の実施	・訪問看護及び高齢者支援分野において、事例検討会を開催し、支援者支援の場を確保できた。 ・子育て中の当事者支援等、次年度につながる新しい家族支援の方向性を確認できた。
③庁内連携の場の確保	場の確保	場の確保 ・障害1回 ・高齢1回 ・医療1回	・庁内のみならず地域の支援者も交えた場を設け、地域包括ケアシステムのイメージを共有することができた。

3 圏域の強みと課題

【特徴(強み)】

- ・従来から地域移行推進連絡会議が協議の場として機能しており、医療機関や地域の支援機関との顔の見える関係が構築されている。
- ・地域移行支援に特化したピアサポーターを養成し、精神科病院や入院患者にアプローチが可能となっている。
- ・措置入院者の退院後支援に取組み、行政・地域の支援者が一体となった支援体制の構築が図られている。

課題	課題解決に向けた取組方針	課題・方針に対する役割(取組)	
障害・高齢・医療分野との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・成功事例を中心に共有する場を設け、連携に向けた意識を高める。 ・障害福祉計画の策定に「にも包括」の視点で参画する。 	行政	ニーズ調査、事例を共有する場の開催、障害福祉計画策定への参画、措置入院者退院後支援
		医療	事例を共有する場への参加、協力
		福祉	事例を共有する場への参加、協力
		その他関係機関・住民等	事例を共有する場への参加、協力
地域移行支援ピアサポーターの活躍の場の創出	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣他市精神科病院への働きかけを開始する。 ・支援者に対し、普及啓発の場を設ける。 	行政	精神科病院への働きかけ
		医療	ピアサポーター活動の受入れ、協力
		福祉	ピアサポーター活動の受入れ、協力
		その他関係機関・住民等	ピアサポーター活動の受入れ、協力

課題解決の達成度を測る指標	現状値 (今年度当初)	目標値 (令和2年度末)	見込んでいる成果・効果
①連携に向けた成功事例を共有する場の確保	0	2	多分野連携に向けた意識の向上
②近隣他市精神科病院への働きかけ	未実施	実施	ピアサポーター活動の普及・拡大、地域移行の促進
③			

※指標設定が困難な場合は、代替指標や定性的な文言でも構いません。

4 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた今年度の特別に考える必要がある事項について

考えられる事項	想定される次期 (方向性判断の必要性が 考えられる次期)	実施する内容
協議の場の開催延期・中止	状況をみながら	<ul style="list-style-type: none">・協議の場の代替として、構成員に対してアンケート調査を実施し、現状と課題の把握を行う。年度内に会議開催が困難であれば、ニュースレター等で調査結果及び進捗状況を発信する。・広域及び密着アドバイザー、自治体担当者とのコア会議を増やし、庁内を中心に「にも包括」構築に向けた具体的な進め方を検討していく。